

# いきいき 行田人

ONE FOR ALL、ALL FOR ONE  
一人はみんなのために、  
みんなは一人のために

## 吉田 祐太さん (29歳・長野)

今月は、東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方の復興に奮闘する元ラグビーマンの吉田祐太さんを紹介いたします。  
「物心がついたときには楕円形のボールを抱えていました」と語る吉田さんは、両親がラグビー好きという影響から、小学一年生のときに本格的にラグビーを始め、中学、高校、大学とチームの主軸として活躍しました。大学卒業後、ラグビー大国のオーストラリアへ留学。「海外での経験を生かしてほしい」という知人の紹介により、26歳のとき、岩手県釜石市に拠点を置くクラブチーム「釜石シーウェイブス」に入団し、2年間スクラムハーフとして活躍しました。同クラブの前身は、かつて前人未到の日本選手権7連覇を達成した新日鉄釜石ラグビー部。平成13年から地域に密着したクラブチームに生まれ変わり、現在トップイーストというリーグに所属しています。  
「あの頃は、特別支援学校に勤務しながら、早朝からトレーニングをしたり、休日は試合を



したりとハードな日々を過ごしました。でも、自分を成長させるチャンスだと思い、つらいと感じることはありませんでした」と充実した日々を振り返るとともに「地域ぐるみで応援してくれて、本当にありがたかった」とクラブを支えてくれた釜石市の皆さんに感謝の気持ちも忘れません。現役引退後、岩手県内の高校で教師として教壇に立つとともに、東北地方のラグビー普及に努めていた吉田さんは、3月11日に発生した東日本大震災に遭遇。地震発生直後のまちは、当たり前前のことか当たり前にできなくなるほど悲惨な状態だったそうです。

4月から母校の県立熊谷工業高等学校に赴任し、ラグビー部のコーチとして指導に当たる吉田さんは、現役時代に新日鉄釜石ラグビー部で活躍し、現在同校ラグビー部の監督を務める新野好之先生と共に「お世話になったまちに恩返しを」と試合会場などでラグビー部員と一緒に募金活動を行ったほか、釜石市など被災した地域にラグビージャージやボールを届けに行きました。「ラグビーを通して『一人はみんなのために、みんなは一人のために』という精神を学びました。今こそ心を一つに、被災者のために助け合っていくことが大切」と復興に向けて熱いメッセージを送る吉田さん。「北の鉄人」の魂を引き継ぐ男はこれからも被災地の復興に向けて仲間とともにスクラムを組み続けます。

# 私の作品

## 俳句

◎皆さんの作品を募集しています。  
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

持田 丸山 麟一  
春の夜一人静かに俳句詠む

佐間 藤田 久仁  
花満ちて鐘楼を巻く夕あかり

中央 藤野 芳江  
みずぐけを除けばそこに芽吹きをり

荒木 高澤よね子  
春寒し屋根瓦落つ大地震

荒木 藤田 栄之  
菜の花や利根の渡船場娘の一人

南河原 今村 文女  
花冷えや涙に霞む震災記

忍 飯島 素子  
待ちわびし雨に生きたる路のとう

持田 伊藤 洋子  
大地震後花見の席のひそとして

前合 石井マサ子  
大屋根のブルーシートに春時雨

桜町 吉岡 守子  
山吹の一枝に忍ぶ細い雨

谷郷 豊田 厚子  
春四月心を空にお茶を飲む

城南 町田 達男  
川筋に雪解け水がうずを巻き

佐間 矢澤喜美江  
水仙に心がなごむ豊かさよ

城西 西田吉之助  
濁る空浄めて欲しい鯉の幟

城南 関口 操  
鯉の池水面に浮ぶ花筏

(木島 斗川 監修)



『ミニ花瓶とお香立て』(陶芸)  
西尾 節子 (下忍)